



体に負担の少ない精緻な低侵襲手術『ダヴィンチ』

当院では、2010年に手術支援ロボット「ダヴィンチ」を導入しています。

今回は、外科分野のダヴィンチを用いた手術について紹介します。

患者さんにやさしい「ダヴィンチ手術」

ダヴィンチ手術とは、通常の腹腔鏡手術を「手術支援ロボット ダヴィンチ(Intuitive Surgical社製da Vinci®Surgical System)」を用いて行う手術を指します。医師が、内視鏡の3Dカメラで映し出された立体画像を見ながら、遠隔でロボットアームを操作し治療を行います。

通常の腹腔鏡手術にない、ダヴィンチならではの特征として、

- ①高画質の3次元立体画像と視野を5～15倍まで拡大できるカメラで、術者が自在に体内を観察しながら手術ができる点。
- ②体内に挿入する鉗子には複数の関節があり、ロボットでしかできない動き(360度回転)など自由に動かすことができる点。
- ③手振れを防止する機能がある点などがあり、より難易度の高い腹腔鏡手術を行う際には、ダヴィンチ手術を選択することがあります。

また、治療中の身体に加わる痛みや負担が少なく、術後の回復が早いことが挙げられます。



▲手術支援ロボット「ダヴィンチX」(左からビジョンカート、ペイシェントカート、サージョンコンソール)

当院における「ダヴィンチ手術」の取り組み

当院では、2010年に手術支援ロボット「ダヴィンチ」を導入し、2011年に岐阜県内で初めて「ダヴィンチ」による手術を成功以降、前立腺全摘除術を中心にダヴィンチでの低侵襲治療の実績を重ね、2019年3月には、次世代機である「ダヴィンチX」へ更新を行いました。翌年度の2019年4月から胃がんを開始して、現在は直腸がん、膵臓がんの治療を行っており、2022年に保険適応となった結腸がんの治療も行っています。

現在、ダヴィンチ手術を執刀する医師は2名在籍しており、胃がんをはじめ、膵臓の治療(膵体尾部のがんと腫瘍の治療)、直腸がんとともに治療の幅を広げながら治療を行っています。今回は、「膵臓がんを含む膵腫瘍」「直腸がん」についてご紹介します。

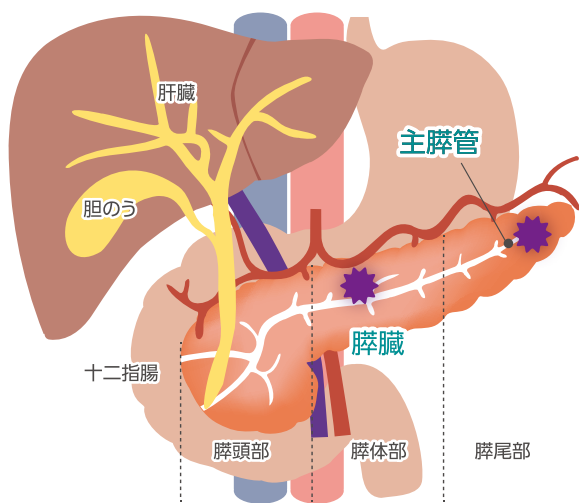


当院のダヴィンチを用いた胃がん手術▶

膵臓がんを含む膵腫瘍の治療

当院では、2022年からダヴィンチを使用した膵臓がん治療を実施しております。

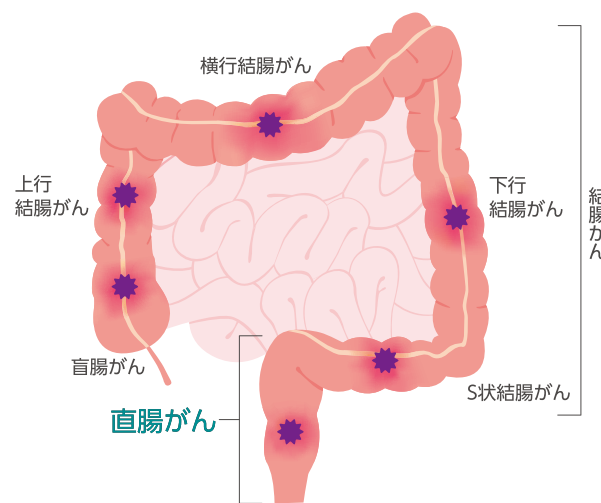
膵臓の切除法は主に3種類あります。膵頭部に腫瘍があるときは「膵頭十二指腸切除術」、膵体部・膵尾部にあるときは「膵体尾部切除術」を行います。また膵臓全体に広がっている場合は「膵全摘術」を行います。その内、当院では膵尾部切除を行っています。



直腸がんの治療

当院では、2011年からダヴィンチを使用した直腸がんの手術を実施しており、症例数が増加しています。直腸周囲の微細な血管や神経の接触を軽減し、直腸がん術後に特有の合併症である排尿障害、性機能障害を減らすことが期待されます。

2018年には、ダヴィンチ手術の「直腸切除・切断術」、2022年に「結腸悪性腫瘍手術」が保険適用となり、全ての大腸がん治療にダヴィンチ手術の保険適用が拡大されました。



担当医師プロフィール

紹介医師の取得資格は一部抜粋しております。
詳細は、当院ホームページをご確認ください。

松波総合病院
「外科・消化器外科」



外科部長 兼 消化器外科部長

木村 真樹 (きむら まさき)

専門分野

▶ 消化器外科: 上部消化管内視鏡 ▶ ロボット支援手術 ▶ 肝胆膵外科

ロボット支援手術関連資格

- ・日本消化器外科学会: 専門医、指導医、消化器がん外科治療認定医
- ・日本内視鏡外科学会: 技術認定医 (消化器・一般外科)、評議員
- ・日本肝胆膵外科学会: 高度技術指導医、評議員
- ・da Vinci certificate (Console Surgeon)
- ・日本ロボット外科学会: 専門医 (国内B)



外科第二部長 兼 大腸肛門科部長

板井 航也 (とちい こうや)

専門分野

▶ 腹腔鏡手術 (消化管、ヘルニア) ▶ 肝胆膵外科
▶ 甲状腺外科 ▶ 肛門外科

ロボット支援手術関連資格

- ・日本消化器外科学会: 専門医、指導医、消化器がん外科治療認定医
- ・日本内視鏡外科学会: 技術認定医 (消化器・一般外科)、評議員
- ・日本大腸肛門病学会: 専門医
- ・da Vinci certificate (Console Surgeon)